

事例8 中学校・2年生

実体験を聞き、よりよい生き方について考える道徳授業

- 1 **主題名** 集団生活を充実させるには **内容項目** C よりよい学校生活、集団の充実
- 2 **ねらい** コロナ禍で活動が制限された方々の心情を多面的・多角的に考える活動を通して、学校や学級の一員として、今の自分の役割や責任を果たすことのよさに気付き、よりよい集団生活の充実を目指そうとする実践意欲を育てる。

教材名 コロナ禍で気付いたこと(出典:「彩の国の道徳『未来に生きる』埼玉県教育委員会」)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

学校の集団生活は、家庭のような私的な集団生活とは異なり、生徒一人一人が自分自身の役割と責任を果たすことや、教師・生徒同士等互いの人間関係を深め、協力して生活することで自分の立場や意義が見えてくる。人間はいろいろなコミュニティをもち生活している。そのコミュニティでは、目標や立場の異なる人と関わりながら共同生活をしなければならない。人がコミュニティの一員としてよりよく生きていくために、自分の属する集団の意義や目的を十分に理解し、自分の役割と責任を果たし集団生活の充実に努めることが大切である。また、集団の中で自分の役割や責任を自覚することは、集団生活が充実するだけにとどまらず、自己の資質・能力を高め自分自身の向上につながることになる。

中学校の段階では、集団への帰属意識も十分とは言えない傾向にあるが、学年が上がるにつれ集団の一員としての自覚が高まっていく。一方で自我意識の高まりもある中で、自己の思いが先行してしまったり、排他的になったりすることもある。

そこで、集団の在り方について多面的・多角的に考えさせたい。特に、今の生活のありがたさを感じながらも、コロナ禍での実体験を複数取り上げることで、その時の人々の思いを捉え、よりよい集団生活について考えを深めたい。

(2) これまでの学習状況及び生徒の実態について

本学級の生徒は、日頃から協力し合って生活をしている。集団生活もしっかりとを行い、学校行事などにも一生懸命に取り組んでいる。しかし、少ない人数であるが故に今ある環境に満足てしまい、さらにはよりよい集団として考えを深める意識は低いように感じることもある。1年次では、道徳の授業で学校の一員としての自覚をもち協力してよりよい学校生活をつくろうとする実践意欲を育んできた。また、1年次の宿泊体験学習でも集団生活を通して、規範意識の向上やそれぞれの役割を考えた学校行事を行ってきた。

そこで、今回は今の生活が当たり前ではないことを自覚させ、恵まれた環境の中で自分の役割や学校・学級の一員として何ができるのかを考えさせ、集団生活を向上させるにはどうしていけばよいのかを考えさせていきたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

カナコとケンタの二人の話を通して、二人の思いを考えながら、自分自身のこととして捉えさせる。さらに、実際、コロナ禍に中学生だった地域の方にも協力してもらい、実体験を手紙で話を聞く中で、3つの話を聞きながらいろいろな人の思いを多面的・多角的に捉え、自分の今の生活をより充実させることを考え、深めさせる。

4 学習指導過程

	学習活動・主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入 (6分)	<p>1 普段の生活で理不尽に活動を制限された経験やその時の想いについて触れる。</p> <p>2 卒業生の体験談について話をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム、携帯のやりすぎで、親からダメだと言われた。 ・部活でやりたい練習が、顧問の指示で別の練習になった。 ・イラついてしまった。 ・指示だから仕方がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に自分の体験をしたときの気持ちを思い出させる。 ・コロナ当時の中学生の実体験を知る。 ・卒業生の体験談を聞くことで、自分事として考えやすく、今の生活が当たり前ではないことを捉えられるようする。
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;"> 体験談を生かし、問題意識を高める導入の工夫 </div> <p>初めての緊急事態宣言は中学2年生の時だった。緊急事態宣言により、学校に行くことができなくなり家の中での生活となった。その時のことと思い返すと、ただ何が起きたかわからず、ひたすらに不安を感じていたことを覚えている。友達と会うこともできず、誰とも遊ぶこともできない。そんな生活が何週間と続いた。当たり前だった日常が大きく変わり、何もかも予想できないことばかりだった。学校にも行けなくなり、友達とも遊べない。少しずつ緊急事態宣言が緩和されても、マスクをつけた生活が当たり前。私が特に印象に残っているのは黙食だ。コロナ禍では、誰とも話せず奇妙な感覚だったことを覚えている。三密に気を配り、気の抜けない生活だった。部活動の大会や修学旅行などの重大なイベントは無くなった。コロナウィルスによって自分たちが本来体験する思い出は失われた。</p>	3 教材の範読を聞く。条件・情況を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物 カナコ ケンタ ・コロナ禍 ・我慢の日々 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ当時の社会の状況の話を聴き、確認とともに、学校生活についても話をしてどのような環境下での生活だったのかを知る。

展開	<p>4 カナコとケンタ、卒業生の心情を話し合う。</p> <p>(1) カナコやケンタ、卒業生はコロナ禍の際にどんなことを考えていたのだろうか。</p> <p>(2) 大人や社会の立場としてはどんな考えがあると思いますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分のやりたいことができない。 理不尽に取り上げられる。 悲しすぎる。 <ul style="list-style-type: none"> コロナが流行るのはよくない。 我慢して生活しなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> やりたいことができない悔しさや悲しさに共感させる。 <ul style="list-style-type: none"> 世間の風潮として納得しなければいけないことを挙げて葛藤させ、気持ちがもやもやして答えが出せないようとする。
----	--	--	---

考え方を深めるための問い合わせの工夫

T : カナコやケンタ、卒業生はコロナ禍の際にどんなことを考えていたのだろうか。

S : 自分のやりたいことができない。

S : 行事もなくなつて悲しいし、理不尽すぎる。

T : 一方で大人や社会の立場としてはどんな考えがあると思いますか。

S : 流行したら困るし、自分もかかりたくない。

S : みんなも我慢しているから、仕方がないよね

T : 仕方がないからって、自分の楽しみにしてきたことや力を發揮した場面がなくなるのは、本当に納得がいきますか。

S : いや、でも世間はやらないし…

S : 行事がないのは嫌だな…

<p>(3) カナコとケンタ、大人や社会の立場の考え方を通して、同じ状況下に置かれたときに自分ならどう考えますか。</p> <p>(4) コロナ禍と比較して、現在の生活は</p>	<ul style="list-style-type: none"> どちらともいえない。 やりたいことができるようになりたい。 自分がかかりたくないから我慢する。 家族に迷惑が掛からないようにする。 <ul style="list-style-type: none"> 今の生活が幸せだな。 自分のやりたいことがやれ 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の頑張っていることや、やりたいことができない状況を想像することで、自分事として捉えられるようとする。 <p>☆学級、学校の一員として、集団の在り方について多面的・多角的に考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> これまであったが無くなってしまった学校行事
---	---	---

	<p>どう変わりましたか。</p> <p>(中心発問)</p> <p>(5) 集団として、今、生活できるからこそ大切にしたいことは何ですか。</p>	<p>ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽になった。マスクをつけてもよくなつた。 ・今の生活は、学校行事もできて満足している。 <ul style="list-style-type: none"> ・役割を果たすこと。 ・互いにコミュニケーションを取ること。 ・思いやりをもって接すること。 ・意識をもって生活すること。 	<p>やコロナ禍での生活(部活動、修学旅行、マスク着用、給食など)との比較をさせる。</p> <p>☆学級、学校の一員として、集団の在り方について多面的・多角的に考えている。(ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間を10分程度取ることで、自分自身の中でじっくりと考えさせる。 ・記入したコメントを回して読み、共感できるところなどにラインを引くように指導する。
--	--	--	--

多面的・多角的に考えるための話し合いの工夫

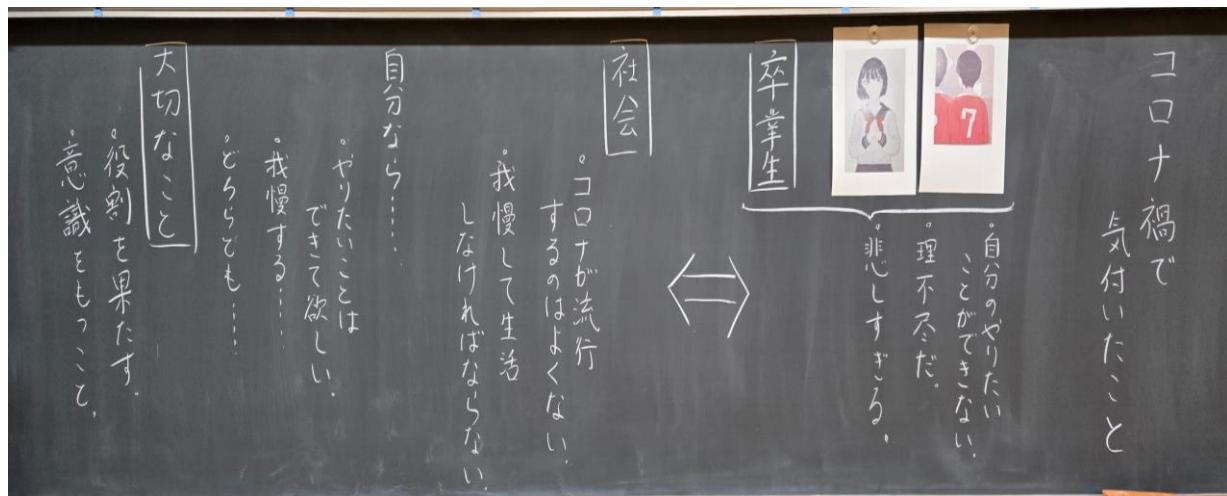
- ① 個人で考える時間
- ② ペアで考えを共有する時間
- ③ 教室を自由に動いて、離れた人との考えの共有をする時間
- ④ 話した内容を含めて自分の考えを再構築する時間
- ⑤ 記入した内容を、10人程度で回して読み共有する時間

生徒のコメント

- ・一人一人が意識して生活することが大切だと思う。今は、まだ自分を含め一人一人の意識が足りないと思う。私たちは1年生の頃から、休み時間と授業でのメリハリや時間を見て行動することに対して、注意されてきた。今年はもう3年生、学校代表ともいえるので、ほかの学年の見本となるよう、気を引き締めて生活していきたい。
- ・みんなが協力し合い、学級目標を考えながら生活すればいいと思いました。昔はコロナなどで学級活動などでもできなかつたけれど、今は自由にやりたいことができるの、自由だからといって規則を守らなくてもよいということはないので、目標が達成できるように頑張っていきたい。コロナ禍では自分の努力が発揮できないことも多かったので、今私たちができることをきちんとと考え実行していきたいです。

終末 (4分)	5 卒業生の現在について話を聞く。	・卒業生の今の思いを聞き、今をよりよく充実した生活にするために生徒一人一人が考えるきっかけとする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 体験談を今後の実践意欲につなげるための終末の工夫 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; background-color: #f9f9f9;"> <p>過去に体験したことを教訓に、今いろいろなことに全力で取り組もうと思えることや、誰かと話したり笑い合えたりすることが貴重に感じる。悪いこともあったけれど良かったこともあったと今は感じている。</p> </div>		

5 板書



6 他の教育活動との関連

事前指導	毎月、学習・生活・運動について頑張る目標を書かせる。
事後指導	学校行事を通して、集団としての在り方や学級の一員として貢献できることを実感できるようにする。
家庭との連携	学級通信等で共有し、家庭でも話題にできるようにする。

7 評価の観点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・学級、学校の一員として、集団の在り方について多面的・多角的に考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関りで深めている様子】

- ・学級、学校の一員として、協力し合って集団生活の向上に努めることを自分事として考えている。